



平成 29 年 6 月 8 日

各 位

会 社 名 株式会社 ユビキタス
代 表 者 名 代表取締役社長 佐野 勝大
(コード 3858、東証 JASDAQ)
問合せ先
役職・氏名 常務取締役管理本部長 長谷川 聡
電 話 03-5908-3451

中期経営計画の修正に関するお知らせ

株式会社ユビキタス（本社：東京都新宿区、代表取締役社長：佐野 勝大）は、平成 28 年 6 月に策定した中期経営計画（平成 29 年 3 月期～平成 31 年 3 月期）を下記の通り修正いたしましたのでお知らせいたします。

1. 修正の理由

以下の通り、当社を取り巻く経営環境の変化と事業進捗を勘案し、当社グループの経営資源の「集中と選択」を断行したため、現中期計画の 2 年目（平成 30 年 3 月期）及び 3 年目（平成 31 年 3 月期）の計画を修正いたしました。

- ・中期計画 1 年目の平成 29 年 3 月期の業績が計画を大きく下回ったこと
- ・IoT 関連市場、技術動向などの変化が想定以上であったこと
- ・平成 29 年 4 月に IoT プラットフォーム事業をソーバル株式会社へ譲渡したこと
- ・平成 29 年 4 月に新たに株式会社エアアイコーポレーション（以下、「エアアイ社」）を当社の完全子会社としたこと

この 2 年間に於いて、着実に当社グループ内での事業シナジー創出や内部管理体制の整備を行い、当社を含む当社グループを収益体質化し、次の成長への足掛かりを築いてまいります。

2. 修正計画の概要

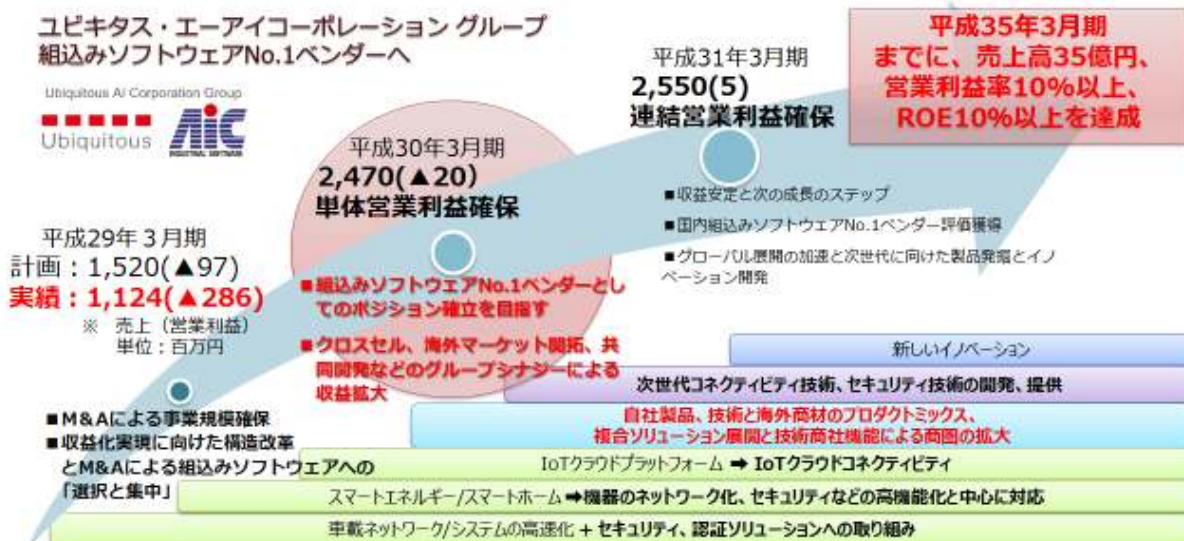
修正計画の概要といたしましては、平成 29 年 5 月 12 日に発表した「平成 29 年 3 月期 決算説明資料」中の「平成 30 年 3 月期の業績予想と重点取り組み」に記載の通り、平成 29 年 4 月 3 日に完全子会社化したエアアイ社を含めたグループ 3 社の総力を合わせ、IoT 実現に必須となる組込みソフトウェアとソリューションの提供に経営資源を集中し、国内 No. 1 の組込みソフトウェアベンダーとなることを通じて、事業規模拡大及び収益化を加速することを目標といたします。

当社の強みである、組込みネットワークやセキュリティの高い技術力と高速起動、組込データベースといった競争力の高い自社開発製品だけでなく、エアアイ社が輸入するユニークかつ先端の海外ソフトウェア製品群が加わることにより、取扱い製品のバリエーションを大幅に増やすとともに、それらを組み合わせた新製品開発、ソリューション化も併わせて推進し、株式会社エイム（以下、「エイム社」）のエンジニアリングサービスと連携しながら注力市場であるスマートホーム/エネルギー、自動車分野を中心に顧客にいち早く、幅広いソリューションを提案できる体制を強化することにより、ユビキタス・エアアイコーポレーション グループとして総力をあげて収益化を加速、最大化してまいります。

これらにより、平成 31 年度 3 月期には、グループ売上高 25.5 億円（現中期経営計画比、31.4%増）まで事業拡大し、連結で営業黒字化を達成しつつ、次の成長のための基礎となる安定した収益モデルの構築と新製品開発投資を行い、平成 35 年 3 月期までにグループ売上高 35 億円、営業利益 10%、ROE10%以上の達成を目指してまいります。

修正中期経営計画サマリー

ユビキタス・エーアイコーポレーショングループ
組込みソフトウェアNo.1ベンダーへ



平成29年3月期～平成31年3月期 中期経営目標の修正

平成31年3月期に売上高25億円超、収支黒字化へ

- ユビキタス・エーアイコーポレーショングループによる取扱い製品数、エンジニアリング技術力の集力で国内組込みソフトウェアベンダーNo.1へ
- 第四次産業革命を実現するための組込みソフトウェアソリューションの提供
- Ubiquitous QuickBootを中心とした自社開発製品の海外への積極展開

中長期成長に向けた新規事業の立ち上げ

- 海外パートナーと自社技術の組み合わせによる新製品、ソリューションのタイムリーな展開、次世代新技術の研究開発
- グループシナジーの最大化、業務提携、M&Aなどによる新事業創出

収益性の改善による安定収益の確保

- 業容拡大による売上増と固定費率低下、コスト効率の改善

3. 各事業の取り組み

(1) コネクティビティ事業

IoTの構成要素である機器、端末側にとって重要な組込みネットワーク技術とセキュリティ技術を中心に、エーアイ社の海外パートナー企業の製品、技術を合わせた共同開発製品や組み合わせにより競争力のある製品群を強化し、注力市場のスマートホーム/エネルギー関連市場、自動車関連市場を中心に、第四次産業革命に向けIoT化が進む各産業向けに求められるソリューションを提供し、株式会社村田製作所との協業を含めた国内外の半導体関連メーカーなど有力パートナーとの協業を通じて拡販を行い、平成31年3月期に390百万円の売上を目指してまいります。「Ubiquitous Network Framework」、「Ubiquitous ECHONET Lite/Wi-SMART」、「Ubiquitous Wi-Fi SDK」、「Ubiquitous Securus」などの自社開発製品や次世代ネットワーク技術やセキュリティ技術に加え、「ComboConnect」のようなエーアイ社が輸入する海外の先端的なソフトウェアを組み込んだ共同開発製品も加え、事業者様やメーカー様が求められる幅広いソリューションにより商材、商流を拡大し「組込みソフトウェアNo.1ベンダー」を目指してまいります。

(2) 組み込みソフトウェア事業

組み込みソフトウェア事業における既存の2つの製品分野(高速起動・データベース)それぞれについて、注力市場に向けた競争力の高い製品を投入し続けることで、ライセンス拡大と収益化の加速を通じて平成31年3月期で480百万円の売上を目指します。高速起動分野においては、自動運転、コネクティッドカーの実現に向けて高機能化する車載機器への採用、開発が本格化しており、引き続き自動車メーカー純正のカーナビゲーションシステムへの採用拡大や次世代のIVI(In-Vehicle Infotainment:車載情報機器)、統合コックピットなどへの早期採用を中心に拡販を進めるとともに、次世代技術への対応や、IoT時代のスマートデバイスへの採用促進も含めて、ライセンス収入の増加を目指してまいります。海外展開に関してはエアアイ社の海外パートナーを通じた拡販を今年度からスタートしてまいります。データベース分野においては、既存顧客を中心にOA、産業機器を中心とした分野へのターゲット市場の拡大を行い、長期安定収益の確保を目指しますが、データベースのオープンソフトウェアの普及等もあり、市場は成熟期を超えた傾向にあるとみております。一方、IoT分野での機器側のデータ管理のニーズなど新しい分野での適用可能性を継続してまいります。

(3) ソフトウェアサービス事業

平成28年4月1日より連結子会社となったエイム社の事業を中心に、平成31年3月期に420百万円の売上を目指します。エイム社では米国Gracenote社の音楽関連データのライセンス収益の他、国内カーナビメーカー向けにGracenote社の製品の受託開発事業が好調に推移しており、その他の受託開発なども合わせ安定的な収益計上を予定しています。また中長期に向けた新技術の開発、新たな事業機会の創出をグループシナジーにより推進してまいります。

(4) その他の事業(ソフトウェアディストリビューション事業(仮))

平成29年4月3日より連結子会社となったエアアイ社の事業を中心に、平成31年3月期に1,260百万円の売り上げを目指します。エアアイ社では、30年以上海外ソフトウェアの輸入販売を行ってきた実績をもとに、ユニークで先進性のあるソフトウェアを国内に紹介することで安定した収益を計上するとともに、「ユビキタス エアアイコーポレーション グループ」として、新たな商流の開拓とともに、当社の技術を合わせた付加価値の高い共同開発製品を市場に早期に投入することでグループ全体での収益拡大に貢献してまいります。

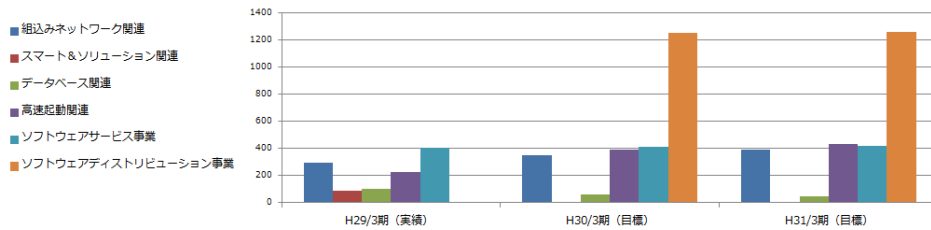
中期事業計画：事業分野目標



IoT機器向けの最先端、高機能の組み込みソフトウェア部品とソリューションの提供をグループ全体で強力に推進

平成31年3月期に連結売上高25.5億円/営業黒字化
平成32年3月期から収益化を加速

数値目標 - 分野別売上高内訳



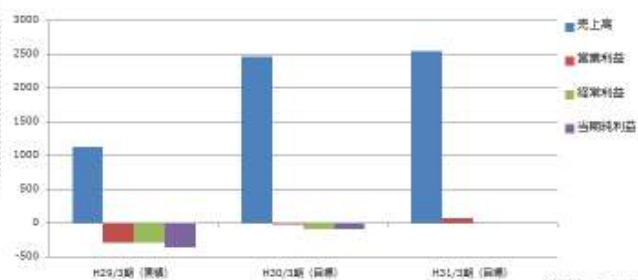
セグメント	分野	H29/3期 (実績)	H30/3期 (目標)	H31/3期 (目標)
コネクティビティ事業	組込みネットワーク関連	297	350	390
	スマート&ソリューション関連	88	-	-
組込みソフトウェア事業	データベース関連	105	60	50
	高速起動関連	229	390	430
ソフトウェアサービス事業		403	411	420
ソフトウェアディストリビューション事業※		-	1,259	1,260
合計		1,124	2,470	2,550

※株式会社エアアイコーポレーションの事業に関するセグメントの名称 (仮)

(単位: 百万円)

数値目標 - 利益計画 (連結)

- ・エアアイコーポレーション社子会社化による売上規模の拡大、エイム社前年同水準で堅調に推移
- ・子会社の営業利益とのれん償却費は同程度と想定
- ・グループシナジーによる収益追加がH30/3期後半より貢献見込み



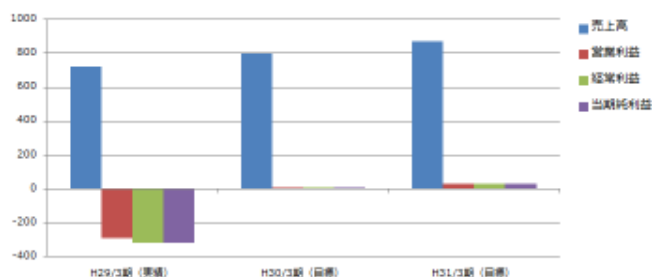
・ H30/3期に**単体**で営業黒字化

・ H31/3期に**連結**で営業黒字達成

	H29/3期 (実績)	H30/3期 (目標)	H31/3期 (目標)
売上高	1,124	2,470	2,550
営業利益	▲286	▲20	5
経常利益	▲286	▲20	5
当期純利益	▲347	▲93	▲15

数値目標 - 利益計画 (単体)

- ・組込みソフトウェアへの注力による収益効率化
- ・注力市場顧客からのロイヤリティ収益の積上げ
- ・セキュリティ製品、グループシナジーによる複合製品の投入による収益拡大
- ・高速起動製品の海外パートナー企業経由での売上計上



H30/3期に収支均衡
H31/3期から収支安定へ

	H29/3期 (実績)	H30/3期 (目標)	H31/3期 (目標)
売上高	720	800	870
営業利益	▲284	5	30
経常利益	▲282	5	30
当期純利益	▲304	2	30

以上